

東山北駅周辺の魅力づくり

川 村

東山北駅近隣住民の悲願である国道246号線の向原バイパス工事は、国土交通省、町当局、地権者の方々の努力と協力により、町道中里線改良などの附帯工事が始まり、工事の状況が目に見える形になってきました。平成17年12月議会で、東山北駅周辺のまちづくりについて一般質問をした際には、整備の必要性を認識され、向原バイパスの進行に合わせて検討するという前向きな答弁をいただいております。特に駅への送迎車の利便性改善については、岸地区のふれあい懇談会でも要望が出ていると思います。そこで、前回質問後の検討状況はどのようなになっているか伺います。

また、県道東山北停車場線、酒匂川左岸道路については、どのような進展があるか、お聞きします。

現在、JR東海では、山下地区付近の法面の改良工事を行っており、現在より道路面が広くなるように見えます。この土地を買い取り町道を拡幅するようJRと交渉する予定はないですか。

19年度予算で駅周辺魅力づくり調査委託料を計上しており、山北駅、東山北駅の魅力づくりの調査であるとの説明がありましたが、どのような調査をし、どのような結論が予想されるのか、お尋ねします。

町 長

東山北駅周辺のまちづくりにつきましては、議員の御質問にもございますように、町といたしましては、国道246号のバイパス工事や周辺の土地利用との整合を図り検討を進めていくことに基本的に変わりはございません。

さて、平成17年12月議会以降の取り組み状況でございますが、平成18年度に行いましたまちづくり交付金事業のソフト事業でございます駅周辺魅力づくり検討事業におきまして、東山北駅周辺の現況調査と課題抽出を行いました。その報告書におきまして、駅前広場の整備や商業施設の誘致の必要性が挙げられております。また、平成19年度、これは宿、斑目、原耕地対象の町民ふれあい懇談会においての東山北駅への送迎車等の利便性の向上として、東山北駅前の通りの一方通行化の御意見

につきましては、警察等関係機関との協議を行う上で、影響のある地域の多くの皆様の同意等が必要になるなどさまざまな条件がございますが、貴重な地域の皆様の声としてとらえさせていただいております。いずれにいたしましても、国道246号のバイパス工事が進んでおりますので、今後は、より一層地域の皆様とのコミュニケーションをとり、周辺の土地利用について、調整、検討を行ってまいりたいと考えておりますので、御理解、御協力をお願い申し上げます。

次に、県道東山北停車場線についての御質問ですが、現在、246号バイパス工事が平成22年春の完成を目指して進められており、県道東山北停車場線の改良工事につきましては、平成20年春から工事に着手し、平成21年春の完成を目指しております。なお、町道中里線のJRとの立体交差及び寺沢の地下化工事につきましては、平成21年春の完成予定で工事を進めておりますが、引き続きバイパス工事が行われることから、バイパス工事が完成するまでは通行どめとなります。また、町営住宅のサンライズ東山北方面から東山北駅の連絡通路として新設される人道ボックスの工事については、平成20年夏の完成予定で工事が進められているところであります。

次に、酒匂川左岸道路の延伸については、平成15、16、17年度の3カ年において、山北町と松田町で酒匂川左岸道路北部延伸整備計画研究会を立ち上げ、オブザーバーに松田土木事務所と当時の足柄上地区行政センターに入っただき、実現に向けた取り組みが行われてきました。しかし、松田町内での都市計画決定が厳しい状況にあるため、当面河川管理用通路として整備することになり、平成19年度より工事が着手されたところであります。

次に、町道尺里橋中里線の山下地区の町道の拡幅についてであります。この地区の道路は交通量が増している中、狭隘な道路であり、普通車での相互通行が不可能な道路であります。このため、現在、JR東海で行っておりますのり面の改良工事にあわせて道路拡幅ができないか、急遽JR東海と協議し、道路用地として町に譲渡していただけることが調いましたので、本定例会で提案します補正予算の中で改良工事の予算を計上させていただいたところであります。

次に、平成19年度駅周辺魅力づくり調査については、平成18年度から平成22年度の5カ年で実施しているまちづくり交付金事業のソフト事業として取り組んでいるものでございます。この事業は、山北駅と東山北駅を対象とした事業でございま

すが、本年度は、まず山北駅周辺に関しましては、空き店舗対策等や景観形成などのモデル事業を実施する検討をしているところでございます。現在、庁内関係部局の調整を行っておりますが、来年早々には、関係団体や関係者との連携により事業を進めたいと考えております。

具体的には、モデル事業では、専門家による空き店舗活用を試験的に実施し、市場ニーズや空き店舗の影響等の分析を行い、山北町に合った個店モデルを提案することや、NPOや大学生など担い手の発掘、民間活力導入の可能性などの検証を行い、今後の新たな商店街活性化の施策につなげてまいりたいと考えております。

また、20年度以降につきましては、山北駅周辺の事業として、引き続きモデル事業の実施や検証を行ってまいります。なお、山北駅、東山北駅周辺全体の整備のあり方や魅力づくりにつきましては、関係団体や地域住民の皆様の御意見等を十分に把握しながら進めていきたいと考えておりますので、御理解賜りたくよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

川 村

土地利用との整合性を図り検討を進めていくことは基本的には変わりはないという御答弁をいただいておりますが、具体的には、2年前の答弁を継続していくというふうに考えて、東山北駅の駅前整備の必要性というものをどのように認識されているのか、まず伺いをいたします。

町 長

一番、考えられますのは、山側といいますか、そっち側のところが、現実の問題として車の送り迎えのですね、すれ違いもできない、非常に狭いところで、今、危ない状況でやっていますので、それに対する対応として、サンライズ側のあちらにスペースがとれるはずですよ。ですから、そこのところに、少なくとも広場といいますか、ちょっとイメージ、ぼやっとしかわかりませんが、十分車がとめられて送り迎えがきるような、そういった空間スペースはとりたいなと、そういうふうには思いましたね。これは、いろいろなことで私もあそこの近辺に行ったときに常に感ずるところですので、そういったようなところが一番思っているところです。

川 村

これにつきましてはですね、平成何年かな、ちょっと忘れましたが、17年

度か16年度か18年度に、向原の連合自治会からも要望が出ておりまして、具体的に向原からとしての提案書を出しておりますし、それから向原の地域づくり委員会で、これも17、8年度だと思いますが、その中でも類似の図面を出しましてですね、こういうふうにやっていただければいいんだというふうなことを出しておるわけですね。町長がおっしゃいましたように、メーンはその東山北駅北側にその送迎用のスペースをつくるんだと、今、乗降客は多いですから、それをメーンにやっていただくということで、2年前には、それに対してですね、大体予算もこのぐらいかかるというような具体的な答弁までいただいておりますので、その件については町長は御存じございませんでしょうか。

町 長

今、川村議員が言われたようなところまでのちょっと認識はないんですけど、いずれにしても懸案であった246バイパスの工事が進んで、もう年限が見えてきておるんですが、それに合わせた格好で、やっぱりそういうタイミングはとられるべきかなと思うんですね。あと、これは常に出てくる予算の問題はあるんですけども、これはいろいろな事業、補助事業を関連させながらやっぱりやっていくべきだろうというふうに現在と思っています。

川 村

行政の継続性ということからいえばですね、それで2年前に私は質問をしておりまして、この質問書の中にも2年前にも質問した内容についてということを書いてございますのでですね、そのときの答弁書の中にも、地域からいろいろな具体的な図面をもって提案をいただいているということが書いてあるわけですから、一応お調べいただいて御答弁をいただくというのが、私は町長として、町の執行者側としてですね、お答えしていただくことが必要だと思うんですが、その点はいかがでしょう。

町 長

ある意味では言われるとおりだと思います。ただ、認識としては十分持っておりますので、これについては、いかにそれをやっていくかということに尽きると思いますので、その対応については十分考えたいと思っております。

川 村

それでは、2年前の御答弁の中にですね、バイパス工事が今行われておりますので、

そのバイパス工事に合わせて検討を進めていくのだというような御答弁をいただいております。そうしますと、22年3月に終わるわけですから、もうあのときから2年たっておりまして、そのときは具体的な計画案を町からありますということを御答弁いただいておりますね。今までに、どのような検討がされて、県とか国とかとどのような打ち合わせといたしますか、折衝をされているのか、交渉をされているのか、お伺いしたいと思います。

政 策 室 長

それでは、ただいまの川村議員の御質問にお答えいたします。当初、地域委員会、または連合自治会の方からもいろいろ御提案いただきまして、当時、山北町としても、その東山北周辺の整備構想というものを、同様な計画のようなものを、町の方でもつくってございまして、それにつきましては、川村議員おっしゃるとおり、246バイパスの工事に合わせて検討を進めていくというようなお話をしていたというふうには聞いてございます。

そういう中で、昨年、平成18年度、先ほど本杉議員の質問にもお答えいたしましたけれども、駅周辺の魅力づくり検討業務、あわせて今、町長の方からも答弁いたしましたけれども、その中で、18年度にですね、東山北周辺地区に関する課題検討ということで、事業を、どういうものの事業を進めていったらいいのか、それに基づいてどういう課題があるのか、そして地域住民の御意見をどういうふうに聞いていったらいいのかというようなことですね、一応19年度は山北駅周辺に特化してございますけれども、20年度から一応周辺ですね、住民の皆様、または自治会代表等をヒアリングを実施していこうというような計画になってございまして、ただ、具体的に神奈川県、または国等とはまだ交渉はしてございません。以上でございます。

川 村

具体的な交渉がされていないんですが、このときの答弁がですね、具体的に県ともいろいろ協議を進めているのが現状だということを答弁されておるわけですね。2年前にもう既に検討をされていたのではないかと思うわけですが、今2年たって、まだ検討が進んでいないという答弁についてはですね、ちょっと後退しているなという感じがするんですが、その点についてはどうなんでしょうか。

政 策 室 長

当時ですね、サンライズ東山北の住宅整備事業を町の方で行ったと思いますけれども、そのときにですね、その周辺と北口の広場整備等の可能性、またはその辺の国道・県道等の、実際にこのような、山北町が先ほどつくったと言いましたけれども、構想図面等で協議は、大まかな協議はしていたというふうには思っておりますけれども、正式なテーブルに載せてこれを進めるという部分の中での協議ではないと、前さばきの協議だというふうに考えております。

川 村

まちづくりのことなんでですね、いろいろ急務ということが、町長にも、当時の執行者の方にも認識していただいていると私は感じておりますから、それで、ここで今バイパス工事が行われているんで、当然国の力を利用すると、言い方は悪いかもしれませんが、今、国が工事を行っているんですから、国の力を利用するとかということは、今の時点だと非常にやりやすいんじゃないかなと思うわけですね。今の政策室長のお答えですと、サンライズ東山北の整備のときに、構想だけ立ち上げたんだと、具体的な協議をしていないということでもありますけれどもね、一応そのときに検討されているんだから、町長はかわられましたけれども、やっぱり行政というのは継続性が大切だと思いますので、町長がかわったらこのものがなくなるということではないと私は思っておりますのでですね、そういうところは、やっぱり職員の方に対してもですね、そのように進めるようなことでやっていただかなければ、私はちょっと遅いのでは、おくらしているのではないかと、滞っているのではないかとというふうに思うわけですね。その点については、先ほども、ちょっと繰り返しになりますけれども、町長がその2年前の御答弁を余りごらんになっていないような、今ちょっと気がしておりますのでですね、その点についてもですね、もうひとつ認識を改めて決意のほどをお伺いしたいと思うんですけれども。

町 長

今、川村議員が言われるように、今やっているバイパス工事に関連して、ついでにというかね、そういうことでやる方が有利な部分が多分ある可能性がありますので、それについては今の御意見を参考にさせていただいて、その線で、その路線を変えずにですね、進めていきたいと、そのように思います。

川 村

そういうことで、一応先ほども言われておりますけども、バイパスは22年3月に完成するんですけれどもね、今はその方向で行くとおっしゃるんですけれども、お金の問題とかいろいろ出てくると思うんですけども、国のね、補助金を利用して整備すると。2年前に答弁いただいているのは、2,550ヘクタール、2,550平方メートルか、その中にロータリーをつくるとか、ベンチを置くとか、駐車場とか、そういうことをつくらなければいけないというような計画まで御答弁いただいているわけですね。これは、我々が出している計画と、この東山北駅のこの北側については意見が一致しているわけです。そういうことについてはですね、できるだけ、今、国道ができた時点で、地権者の方々との話し合いを早めに持っていただかなければ、御承知のとおり国道246のバイパスについては数十年かかっておりますからですね、地権者とか地域の方々とはですね、早めにお話をしていただかなければならないんじゃないかなと思っています。それで、2億二、三千万のお金が必要と、そこまで出ているわけですから、その計画の中身はわかりませんが、それについては、だから国に対してとか県に対してですね、そういう何ていいますかね、交渉といいますかね、そういうのがあってしかるべきだと思うんですが、それについては全然…その予算とかそういうものについてはどのようにお考えでしょうか。

町 長

予算については大変厳しい状況にあると言えますね。といいますのは、いわゆるまちづくり交付金の事業が昨年度から始まって、今年度、来年度と続いていくわけなんですけども、5年間の事業ですね。かなりの部分、これで予算に、予算というか計画にのっかってますので、しかも来年の平成…今年度も結構3億以上の額になっているんですけど、来年度も、本来は1億六、七千万の予定だったものが、いろいろな関係もございまして、相当金額がふえてしまうというような今のところ見通しなんです。ですから、これから、予算査定をやっていく中で、どうするかという大きな課題も持っているわけですし、これがやはりまた21年、22年というふうに続いていきますので、その辺の絡みから考えると、その今の北側の整備を、駅の北側の整備をどこに位置づけるかということにも関連すると思いますけども、予算的にはかなり厳しいという中で、さっきのそのタイミングとしてね、246バイパスをやっている、そこに続いてやった方がいいのではないかという一つの状況もあるわけですから、それについては、

十分検討してやっていきたいと思います。

川 村

予算的には厳しいというのは、全体が厳しいということはわかるんですが、まちづくり交付金を使えばですね、4割までですか、一応有利なことは有利なんですけれども、そのほかにもやっぱり補助メニューというのは、国の補助メニューというのはいろいろあると思うんですよね。だから、まちづくり交付金にとらわれずにですね、一応、何ていうかな、いろいろな補助メニューを探していくということでですね、本当に必要であれば、ちょっとそれを早めにですね、積極的に動いていただいて、これは動いたってきっと2年やそこらでできるもんじゃないと私は思っておりますからですね、動き出しがいつかということが大切なんだと思いますので、その点については、今後どのように動き出されていくのかですね、ちょっとお伺いしたいんですけれども、予算も含めて。

町 長

手順とすれば、多分今のまちづくり交付金事業との関係、それと、今言われた別のメニューが何かあるかどうか、そういったことからその対象の事業を探してですね、その上でどうするかということになって、しからば、じゃあそれについてどのように県や国に働きかけたらいいか、その事業の内容ですね、この事業の内容によりましようけど、そういうことになるんだろうと思いますね。

それと、あと町としてのこれから三、四年先までの全体の予算の枠組みといいますかね、そういうものを想定した中でどこかに位置づけ、どこに位置づけができるのか、そういったこともやっていかないと、単にそこだけを具体化して進めていっても、これもまた問題かなというふうに思いますけれど、そういった今申し上げたようなことの手順を追ってですね、できれば早くやりたい気持ちは私もありますが、そういうことで進めていきたいと思います。

川 村

予算の枠組みで位置づけを考えていかれるとおっしゃるので、予算は非常に厳しいと思うんですが、結局、負債が発生すると思うんですが、ちょっとそれじゃあ論点を変えてですね、負債が発生しますので、それに対してですね、今、一般会計で言いますと山北町は41億何がしの負債があると、それに対して20億は交付税措置

だよと、そういうことでありますので、町長の言われておりますように、21億が実際の住民負担であるというふうに言われているわけですね。総務省が決めておりますこの、フローの指標、公債費比率とかですね、そういうものについては今は健全であると、そういうようなことを言われておるわけですね。そうはいっても、全体的に負債が多いじゃないかということなんですが、そうしますと、やっぱり全体的にね、平成19年度から総務省が取り入れています、実質将来財政負担比率っていうんですか、それも含めて見たときにですね、今はもうお金がないので、財政が厳しいから借金しちゃいけない、いけないというような話もあるんですけども、そういう指標をですね、幾らぐらいの数値で推移していけばですね、借金していてもいいのかとかですね、そういうことはどのように、ストックの指標になると思うんですけども、お考えになりますか。

町 長

今、総務省の方の指導で、自治体の方も企業と同じように明快にわかるようなフローとストックに関してのですね、指標を出すように進めていますよね。数値はなかなか難しいんですけど、例えば、実質公債費比率は、今は18ですか、14でしたかな。実質の方は14か。それを山北町に当てはめてどうかということになるわけでしょうけれど、今はまだこの時点でね、それについて何%でなければならないということは思いません。場合によっては、それを多少はみ出すこともあるかもしれませんね。ただ、それには、町のこれからの投資的事業をある程度長期的に見渡した中で、一時的にじゃあ仮にオーバーしても、先、あと10年をにらんだときに、少しずつそれが取り戻して平常なところに戻るという可能性が見えるのであれば、一時的にそういうことをしてもいいのかなと。余りそればかり気にして萎縮してしまってもいけないと思いますし、それは必要なところ、必要な投資についてはよく考えた上でやりたいと思います。

私は、やはり何か余計なですね、お金がかかるようなものをどんとやる気はありませんので、町にとって、町民の方にとって必要なものに関してはお金をかけたいと思いますけども、それでもやはり長期的なそういう今後の負債の比率等を見通した上でですね、対応していきたい。だから、場合によっては、少々率をオーバーしても見通しがあるのであればやってもいいのかなというふうに思っています。

川 村

今、そうおっしゃっていただいて、私もそのとおりだと思うんですね。あるところでは、ある程度でこぼこがあってもやらなきゃいけないところはやらなきゃいけないと思うんです。それで、先ほどの町長の午前中の一番のごあいさつでも、定住人口増しを対策しなきゃいけないと、こうおっしゃられておりますし、それから本杉議員の質問に対しましても、岸、向原地区については、土地利用を図って定住の促進をして人口増しをしていかなきゃいけないと、そういうふうなことをおっしゃっているわけですね。それと、若者のいわゆる生産者人口の転出を防がなきゃいけないと、それが税収をふやす道だとおっしゃっておられるので、まさしくそのとおりなんですね。ただ、今は転出、アンケート結果なんかを見ますと、転出している方は、交通が不便であるとか、働く場所がないとか、そういうことでありますので、やっぱりこの駅周辺ですね、インフラ整備をして、駅へ通うようなところはきちんとやるとか、岸の地区の方はほとんど東山北駅を利用しておりますので、その方の送迎の車がきちんとできるとか、循環バスがそこを通れるとかですね、そういうことを、まずインフラの整備というのをね、やらなければそういうことが、いわゆる人口対策とか、そういうことにはならないと思うんですけれども、いかがでしょうか、その点について。

町 長

今、幾つかおっしゃられましたけど、例えば循環バスはね、もう御存じのようにそう簡単には、その、今の…。それで、やはりその辺のコミュニティーバス的なものについては、検討はしていかなきゃいけないと思うんですね。ただ、この辺は、今すぐやれば当然お金がかかるわけですから、それはこれからの、わかりませんが、例えばその学校統廃合の問題と絡めて、そういう観点からスクールバスですとか、そういうことに、単にスクールバスだけでなく、そのバスをいろいろ応用はできるわけですから、そういうことを使っていけば町民の足として便利にはなるのかというふうに思っています。

確かに人口対策は非常に難しいところですけど、先ほども言いましたように、地道に一つ一つやっていって、町民の方が、通勤は遠いけど、交通は不便だけど山北に住みたいという、何らかそういう思いが出るようにやっていかなければいけないわけですから、そのためには、やはりすぐにどうこうはできませんので、先ほど言ったよう

なことを含めて一つ一つ町民の方が山北に住み続けていられるように、企業誘致も含めてね、そういったことをやっていきたいと思いますね。

川 村

私が申し上げているのは、循環バスは一つの例でございまして、例えばの例でございまして、要するにインフラ整備が必要であるということを言っているわけですね。まちづくり懇話会の中間報告では、新聞によりますと、もうインフラ整備はやめるんだと、ソフト事業だというようなことが新聞で出たんですけれども、これはあくまでも懇話会の答申、中間報告だと思うんですけれども。ソフト事業にしてもですね、私の考えでは、ソフト事業というのは、ソフトは幾らいいソフトを持ってもですね、そのインフラ、ハードがきちんとしていなければ何も動かないわけですね。例えば、いい例がパソコン、昔の98にビスタのソフトを持ってきてたって動かないわけですよ。今の現代の一番いいソフトを持ってくるんだったら、そのハードそのものをですね、整備しなければいけないということで、まずインフラ整備をやるのがその人口対策とか転出防止とかにね、必要なんじゃないかということで、東山北というのは一番、山北の中では一番東側に位置しておりますし、これから開発するには、非常に土地も畑とかありますからね、やりやすいんじゃないかというような見地に立って御提案もしているわけなんですね。だから、早くしなければいけないんじゃないかなというふうに思っています。その点についてですね、もう一度、インフラ整備が私は必要であると思っているんですが、その点について御答弁願います。

町 長

そのインフラ整備が具体的にどういうことをおっしゃっているのか、今、代表としてその東山北駅の整備のことなのかですけど、そんなにそれ以外に、それは道路整備とかいろいろありますけれど、いろんな要素をよく見た上で、町民のこれからの生活にとって重要なものであれば整備的なものはね、やっていかなきゃいけないと思いますが、あくまでやはり優先順位と予算の問題との関係だと思いますので、その辺は十分判断して進めていきたいと思っています。

川 村

いや、私はインフラ整備と言っていますが、今、東山北駅の周辺整備のことに特化して質問しておりますので、そのことではございますので、ほかのことに話を散逸す

る予定はございません。だから、東山北駅の、今申し上げましたように、例えばその連合自治会から提案しているものとか、地域づくり委員会から提案しているもの、それから2年前に私が質問した、その内容に沿っての質問でございますので、それより逸脱した答弁は必要ないと思いますので、それについてだけ特化した形での御答弁をいただきたいんです。

町 長

そういうことであれば、先ほど言いましたように、これからのある程度のロングレンジの中での町の財政の見通しを立てて、そしてほかの事業との、投資的な事業…投資的な事業になりますよね、そういうことの比較で優先順位を決めることになると思うんですね。これは、これからいろいろ河村城址関係の整備もまだ残っておりますし、それから道路関係もたくさんございますよね。水上橋のかけかえの問題等もありますし、等々ありますので、その辺をよく、大きな額の投資の中をよく順番を見きわめて、そういうふうやっていくことになると思うんです。

川 村

そのとおりで、予算の関係もあるので、順番があるかと思うんですけれども。それでは、先ほどちょっと話に出ましたけれども、財政負担の件なんですけれども、いわゆるストックの財政負担比率というのが平成19年度から加味をしなければいけないということになっていると思いますので、この数値はですね、指標が、目安はどれぐらいだったらいいかということですね。これは、どのようにお考えになりますでしょうか。

町 長

今、その議論については、この場での回答はしません。ちょっといろいろな関連がありますので、ここで簡単に何%とかですね、そういうことは言うべきものではないと思いますので。今年度予算を組む中では、いや応なく見ていかなければいけないと思いますけど、あと数年先を見るということも必要ということで、そういうことを見ていく中で町のこれからのあるべき数字というのは把握して、将来像、将来の数値をにらんでですね、進めていかなきゃいけないというふうに思っています。非常に重要なことであります。

川 村

わかりました。一応ですね、私が調べたというか、勉強した範囲では、本に書いてあることですが、こういう本もあるんです。これでちょっと勉強した範囲においてはですね、将来負担比率の目安というのは、50から100%ぐらいでいいんじゃないかと、そういうようなことがあります。まあ、でもこれは今年度だけじゃありませんのでね、長期レンジで見ていかなきゃいけないと思うんですけれども、そういうことも見てですね、ただ、抽象的に負債が大きいとか、トータルの借金が多いとかで、それだけではですね、ちょっといけないんじゃないかなと思うわけですね。

それで、私がちょっと18年度についてですね、これは余計なことかもしれないんですけど、18年度についてどれぐらいかということをしてですね、一般会計をもとに計算してみたんですね。そうしましたら、一応交付税措置されるものも負債だと入れてしまえばですね、その財政負担比率が144%になるんですが、これは、地方債と債務負担行為を足したものを標準財政規模に割って144%になるんですが、何ていいますかね、交付税措置されるものを引きますとですね、79%になるんですよ。それが正しいのかどうかということはですね、執行者の方で御判断いただいてね、どうすべきかということは御判断いただくんだということだと思うんですが、ただ、やみくもにお金がないからできないとかですね、そういうことじゃなくて、そういう指標をもとにですね、どこまでは行けるとか、何年を見通したら行けるといような御判断をいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

町 長

その辺は私も十分承知していますので、単に指標だけを見るわけではないとは思いますが、確かにでも指標は大事なことですから、せっかく総務省の方でそういう新たなものを整備することになっていますので、その辺は逆に有効に使いながらですね、町の財政としてのあり方の居どころといいますか、その辺をどこら辺までなら許容できるかということを十分見た上でですね、これからの予算編成、それから投資的なものについての見通しというようなものを考えていきたいというふうに思っております。

川 村

そういうことで進めていただきたいんですが、では、いわゆる東山北駅の整備につきましては、今、具体的に答弁いただいていないんですが、バイパスの工事進めてこ

れから鋭意検討していただくと、進めていただけるというふうなことでよろしいんでしょうか。最後に御答弁願います。

町 長

鋭意進めるというか、そういうことを…どういうふうに言いましょうかね、おくれないように検討はしていきます。そして、あと、やるかやらないかというのは、さっき言ったようなことの予算の関連もありますので。ですから、また検討しないでいいということだとまた時間がたちますので、それに乗りおくれないようにには検討をしていって、あとは予算との関係でどうするかということを考えながら進めるということになるかと思います。